

移乗介護ロボットの導入により、職員の腰痛予防等を実施。眠りスキンの導入することにより、見回りと、本人の睡眠の担保を実施した。

社会福祉法人長崎市手をつなぐ育成会
共同生活援助 ケアホーム三京・短期入所

課題

- ・重度高齢化が進み、ベッド、トイレ、車椅子等の移乗に安全面とねの高さがあった(hug)。
- ・ベッド等の移乗に関し2人の職員が必要(hag)
- ・就寝中の安否確認及び起き上がり時の転倒防止の見回りが頻繁



・移乗ロボットの導入
・眠りスキンの導入

移乗ロボットhug 1台
3台

成果

【移乗時の安全の担保・腰痛予防】

- ・利用者の転倒が激減した。
- ・職員の腰痛及び疲労軽減。(hug)

【量的な効率化】

- ・移乗時の2人体制が1人体制で良くなった。移動の時間短縮にもつながった。(hag)
- ・就寝中の安否確認(1時間毎)の見回りが眠りscan導入により、睡眠、バイタル、起き上がり等PCで確認できるようになった。

業務効率化のステップ

<HUG・眠りscan導入>

【会議等で】

- ①利用者の安全に移乗できる機器
 - ②職員の肉体的疲労の軽減を助ける機器
 - ③2人体制を1人体制に変えるための機器
 - ④時間短縮可能な機器
- 等の提案をし、各人で提案するようにした。

- ・職員全員による討論会(カタログ等を資料に根拠ある発言)
- ・それぞれの場面設定での提案
- ・全員での意見により決定する。

職員の声など

【良かった点】

- ・利用者の安全が守れるようになった。
- ・2人体制が基本1人で移乗できるようになった。
- ・移動に時間を要していたが、かなり短時間に移乗ができるようになった。
- ・肉体的負担が軽減できるようになった。

【悪かった点】

- ・機械の操作マスターに時間を要した。(hag・眠りscan)
- ・もう少し半径の動きが短ければ狭所での使い勝手がよくなる。(hag)
- ・荷重のかけ方でデータが感知できない時がある。(眠りscan)

【今後の課題・その他】

- ・機器類の性能・精度向上と使いやすさ

